

減災 NEWS

近畿大学奈良病院DMAT災害対策委員会

文責：太田千夏・橋本賀幸

vol. 31 2026. 7. 30

皆さん、こんにちは。令和8年6月6日に第5回奈良メディカルラリーが奈良県立医科大学で開催され、当院の医師2名、看護師2名が、生駒市消防本部の救急救命士と混成チームを結成し参加しました。当日の様子をお届けします。

多数傷病者訓練



メディカルラリーとは・・・

医師、看護師、救急救命士がチームを組み、実際の救急現場を想定したシナリオで、情報収集、現場指揮、医療処置を行う実践型の研修です。対応した内容は審査員によって評価されます。2002年に大阪の千里メディカルラリーで初めて開催されました。現在では順位を競うだけでなく、実際の現場さながらの緊迫した状況の中で対応力を高め、多職種間の連携を深める教育・研修の場として全国で開催されています。

印象的だった1ブースを説明します

他病院の救急外来へ医療支援チームとして派遣される想定でした。診察室に入ると交通事故で意識のない女性と家族と思われる男性がおり、男性は治療に非協力的な状況でした。男性への対応のため看護師1名が別室へ移動すると、女性の子どもである乳児も搬送されてきました。女性は外傷性気胸と診断し処置を実施。乳児は呼吸状態が悪化しましたが、家族の持ち物から必要な情報を収集し、適切な対応を行うことで状態が安定しました。

外傷
ブース



IMT (生駒メディカルラリーチーム)
医師：小谷・山根
看護師：太田・橋本
生駒消防：田中・酒田・名倉・和田・北山

制限時間の10分が終了し、フィードバックを受けました。実は男性へ対応した看護師は、別室で男性に襲われる設定となっていました。また、女性には背部に複数の傷があり、男性から逃げる途中で更に交通事故に遭ったという背景が設定されており、細部まで作り込まれたシナリオでした。このような実践的な訓練を全8ブース(産科救急・避難所関連・精神在宅・多数傷病者・中毒・DMAT関連・外傷・院外心停止)で経験し、メディカルラリーは終了しました。

今回、メディカルラリーに参加し、普段経験することの少ない病院前医療(救急現場から病院到着までの医療活動)を実践的に経験することができました。現場到着から情報収集、トリアージ、初期対応、搬送先医療機関の選定まで、生駒市消防本部の救急救命士から現場活動に必要な知識や判断、多くの学びを得ることができました。普段は病院内で搬送された患者さんへの対応が中心ですが、今回は普段経験することの少ない救急現場で、限られた情報の中で状況を判断し対応する難しさを学ぶことができました。今回、生駒市消防本部の救急救命士と訓練を共にしたことで、病院前医療と病院内医療が切れ目なく連携することの重要性を改めて実感しました。この経験を日々の診療や災害医療へ活かし、地域の皆さまにより安全で質の高い医療を提供できるよう努めてまいります。メディカルラリーは、職種を問わず多くの学びが得られる実践的な訓練です。興味のある職員の皆さまは、お気軽にDMAT災害対策委員会までお問い合わせください。

ご意見やご感想、ご質問等ございましたら、【患者さまの声】にお願いします。
(患者さまの声は、2階正面玄関前カウンター、再診受付機脇、各デイルームに設置しています。)